

1 お医者さんに行く前に

①日頃からお子さんの様子をよく観察しましょう。

日頃からお子さんの特徴やくせ、体調を把握し、もしもの急病などのときにも、早めに発見できるように心がけておきましょう。

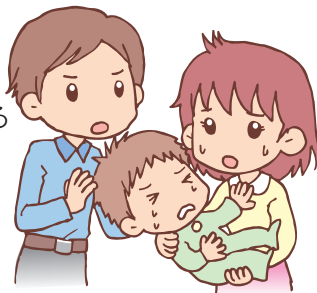
②お子さんの具合が悪いときも、まずは五感をフル活用し状態をよく見ましょう。

- ぐったりしていないか。ウトウトしていないか？
- 呼びかけに反応するか。あやすと笑うか。
- きげんはよいか。
- 顔色、肌の張り、つやはよいか。
- 食欲はあるか。(赤ちゃんの場合、ミルク、母乳の飲みはよいか。)
- おしっこは出ているか。(オムツがいつものとおりぬれているか。)
- 便は出ているか。色、においはどうか。おなかが張っていないか。
- 息はゼーゼーしていないか。(背中に耳をあてて聴いてみて)
- 鼻はつまっていないか。

発熱等があっても、生後6か月以上のお子さんなら、上にあげたポイントの全てに異常がなければ、翌朝まで待っても大丈夫なケースがほとんどです。心配なお気持ちは十分わかりますが、深夜の受診は、お子さん本人の負担になり、かえって症状が悪くなる場合があります。

出来るだけ診療時間内に

かかりつけ医を受診しましょう。



夜間の急病のときは、まず、**子ども医療電話相談** にご相談ください。お子さんの急な病気への対処方法や、応急処置などを相談できる窓口です。

短縮番号は、**#8000**

本誌 33 ページに詳細は記載。

+ はやめに受診した方がよいとき

- ぐったりしている。
- 呼びかけに反応しない。
- いつもと泣き方が違う。あやしても泣き止まない。
- 顔色が悪く、肌に張り、つやがない。
- お乳を全く受けつけない。
- おしっこが出ない。
- けいれんが続いている。
- 嘔吐下痢が止まらない。
- 息がゼーゼー、苦しそう。咳がひどい。
- 鼻がつまって苦しそう。
- 高温多湿のところに、長時間いたあとの高熱